

様式第2号

事業再評価シート

事業名	河川事業（広域河川改修事業）		
箇所名	二級河川耳川水系 耳川	市町村名	日向市

（上段は前回、下段は今回）

実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 交付金 <input type="checkbox"/> 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H11	H20	H30	
		H25	H31	
事業進捗	全体事業費 （百万円）	既投資額 （百万円）	進捗率（％）	
	6,761	2,264	事業費	用地
			33.5	46.3
6,761	4,217	62.4	98.3	
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	事業採択後10年経過		2.58	継続
	再評価後5年経過		2.50	継続

全体計画
<p>耳川では、流下能力が不足しているため、度々浸水被害が発生している。このため、耳川河口から八重原橋下流までの17.8km区間において、平成11年度から河川改修事業に着手している。また、改修延長が長いことから、土地利用一体型水防災事業等の他事業でも取組み、事業効果の早期発現を図っている。</p> <p>※耳川水系河川整備基本方針：平成13年 7月17日策定 耳川水系河川整備計画：平成16年 6月11日策定</p>

事業概要
<p>概ね50年に1回程度発生する規模の洪水を安全に流下させることを整備目標に、主に河道掘削、護岸整備、橋梁架け替えによる整備を実施し、流下能力を向上させ、浸水被害の軽減効果を図る。</p> <p>改修延長 L = 17.8 km          総事業費 6,761 百万円          計画規模 5,900 m<sup>3</sup>/s 美々津橋地点（計画洪水規模：1/50）          事業内容 築堤、河道掘削、護岸、橋梁架け替え</p>

事業目的
<p>○対象事業の目的、必要性 耳川では、流下能力が不足しているため、度々浸水被害が発生している。流域内には人家や事業所などの資産が集中しており、浸水被害による損害が大きいことから、流域住民からも早期改修の強い要望がある。</p> <p>○計画での位置付け 耳川水系河川整備計画が平成16年 6月11日に策定されている。</p> <p>○事業を継続する必要性 改修が完了した地区については、一定の流下能力及び宅地高が確保されたものの、残る地区では、依然として流下能力が低い箇所があることから、河川改修を引き続き実施する必要がある。</p>

### 事業の進捗状況

#### ○現在の事業進捗、整備効果の発現状況

平成20年度までに、床上対策事業及び水防災事業での施工も含め、鳥川、広瀬、福瀬、小野田、中野原地区について、築堤や宅地嵩上げによる改修事業を実施した。

その後、平成25年度までに飯谷、余瀬、羽坂地区において、築堤、河道掘削、橋梁架け替えによる整備を実施している。

#### ○今後の事業進捗の見込み

鶴野内地区については、平成24年度より築堤の工事に着手しており、用地買収を進めながら順次河川改修を実施していく。さらに、福瀬地区において、福瀬大橋の架け替えを実施していく予定である。

また、幸脇、立縫の2地区については、土地利用一体型水防災事業により、築堤及び宅地嵩上げによる整備を順次実施していく予定である。

### 社会情勢等の変化

#### ○事業を取り巻く社会情勢等の変化

流域には、人家や事業所などの資産が集中しており、浸水被害による損害が大きいことから、流域住民からも早期改修の強い要望がある。

#### ○災害等の発生状況(耳川流域の日向市・旧東郷町のみ)

平成9年9月(台風19号) 床上浸水162戸、床下浸水24戸、浸水面積約66ha

平成16年8月(台風16号) 床上浸水12戸、床下浸水26戸、浸水面積約7ha

平成17年9月(台風14号) 床上浸水81戸、床下浸水72戸、浸水面積約365ha

平成19年7月(台風4号) 床上浸水2戸、床下浸水8戸、浸水面積約3ha

#### ○環境保全に対する取り組み

現況の優れた自然環境や多様な生物の住処を残すため、施工時の環境改変を最小限に抑えるよう留意し、水際部の河畔林を保存する等、良好な水辺空間の保全に努めている。

### 事業効果の分析

#### ○費用対効果

今回の再評価による費用対効果は、2.50である。

#### ○事業を継続することの事業効果分析

事業継続により、流下能力が低い箇所を解消を進めることで、洪水被害を軽減し、安全で安心して暮らせる社会づくりが推進される。

### コスト削減

築堤工事の実施に際して、中野原、飯谷地区等において、道路事業と連携して取り組むことによって、コスト削減を図っている。

### 代替案の可能性

耳川では、それぞれの地区での家屋集積状況等の現地状況に応じて、最適な工法による事業を実施し、コスト削減と事業効果の早期発現に努めており、現況案が最も適した案である。

### 対応方針

継続

位置図（管内図）

